

地域のおたより

にいがた緑の百年物語

中越沖地震より

この地域は三年前の中越地震で大きな被害を受けました。その復興途中、又中越沖地震(昨年七月十六日)が起き、この地域は三年の間に二度も大きな被害を受けてしまいました。多くの建物が倒壊し、山が崩れ道路が寸断されました。また、先回全壊になった家を直した後、すぐまた全壊になった家もあります。

しかし、先回同様、多くの人達からご支援等を頂き、現在では少しずつ復興の兆しが見えてきました。本当に大勢の皆さんに感謝しております。そのよくな中で、地域推進員としての活動は、地区地域推進員の高杉さんに助けられ、植樹祭等に参加させていただいております。個々の活動はしにくい状況にあります。この地震で多くの人に助けられ、学んだことを今後の活動に生かして行きたいと思っております。

柏崎地区地域推進員 小林 紀昭



▲震災地でのボランティア(NPO法人ウッディ阿賀の会)

自然を守る

私が小さい時に川には沢山の魚がいました。その遊び場が今では見られなくなりました。山は保水力を失い、近代化開発で自然が失われてしまいました。世界的な大問題となつてしまいました。国レベルで対策を行わない事には個人的な想いではどうにもならない事です。私個人的には学校関係、興味を持つている人に対談指導しています。植樹、育樹、病害虫にはどの様にするとかを説明して、どれ一つでも怠らずに頑張してほしい、その結果は成功します。緑を守ると言う事は植樹だけではなく、ありません。自然は作るのではなく、大切に手入れをし、保護して守り続けて行く事で緑の百年物語が達成できるのではないのでしょうか。私達の行動は良くても悪くても自然は答えてくれません。でも結果は現れてきます。知識を身につけて未来の為に行動したいです。春には椿の花、山に行くと山桜の花がともきれいですね。自然と環境を次の世代に!



十日町地区地域推進員 鈴木 俊一



▲津南町のブナ植地「なじもん」にて、ブナの苗木(幼木)の植付

上越地域緑化推進連絡会議の立上げ

春になりこれから生物の本格的な活動期に入ります。雪国では越冬ということが生物、特に動物では乗り越えていかなければならない課題です。昆虫や両生類などのライフサイクルは非常に正確で、地球温暖化がどのように影響していくかが懸念されます。

さて、上越地区では昨年十月に「上越地域緑化推進連絡会議」を立ち上げ、緑の百年物語の推進をはかることとしました。県上越地域振興局、上越市、妙高市と六回にわたる打合せを持ち、上越地域の十七団体と第一回連絡会議を開催しました。関係団体との連絡調整を行うことを目的とし、相互の情報交換と連携・共有化を図る活動を行います。今後、地域緑化活動のネットワーク拠点として、機能の一層の充実を図っていききたいと思っております。上越地区の皆様よろしくお願いたします。



上越地区地域推進員 梅林 正



▲上越市自然観察調査隊

次世代に緑の遺産を引き継ぐ「緑の百年物語」県民運動を
県全体に広げていくために、県内各地区に配置された
「地域推進員」からのメッセージです。

森林、林業を考えると

森林への期待がますます高まってきたりしますが、近年木を育てる林業経営は大変厳しい現状にあります。以前はある程度の面積があれば採算的にも安定していましたが、雇用による労力が主であることから、皆伐しても再造林出来ない状況になってきています。当地域は植林地も多く、林業で生活している方も多数おり、将来的にも豊かな緑を残していかなければと思っております。

最近では、森林はきれいな空気や水を育み川や海ではおいしい魚が育つといわれております。木工体験を通して木材の良さを認識していただき、森林、緑の大切さを感じてほしいものです。

これからも地域の子供達にいろいろな体験を通して森林、林業の大切さを伝えながら活動したいと思っております。

村上地区地域推進員 小田 茂弘



▲しいたけのコマ打ち体験

緑を育て、緑を守り続けよう

「巻地区みどりの会」は昭和四十五年五月創立以来、緑を育て土に親しむ運動を推進するとともに、自然と人工の美を調和させ、地域の生活環境を二層豊かにすることを目的として活動が継続されて来た。会員数は六五〇名、近年、会員の高齢化に悩まされながらも、年間延べ二百名の会員が献身的にボランティア活動を推進している。

活動の舞台は公共施設の庭園整備で、春は松の木の剪定作業、秋は越後の風物詩「雪吊り」作業を行い、参加者も新潟市西蒲区全域に拡大しつつあり、「話し合い、学びあい」「生きがいのある」活動を継続していきたい。五ヶ年間に亘り植樹の助成事業を受け、三ヶ所の造園作業を完了した。平成十九年度は、ふるさとの森、巨木・銘木を後世に伝えるために、新潟市「保存樹」に十数本の指定を受け、

緑を守り育てる活動も推進している。



新潟地区地域推進員 坂井 弘



▲H19.11 得志荘 雪吊り研修会

「魚沼森の感謝祭」とブナ林

第三回「魚沼森の感謝祭」が昨年十月に「越後ハープ香園入広瀬」で開催された。二回目が塩沢町、二回目が十日町市で本年は塩沢町の予定である。

県南魚沼地域振興局、魚沼地域市町、森林組合が主体となり地域関係団体が協力、一般参加者も大勢参加の地域最大の森林行事だろう。林業功労者の表彰、これからは担う「緑の少年団」等に依る諸行事、そして、苗木等の植栽や森林の保育、それと付帯の各種イベント等である。今回は、杉林の除間伐、枝打ち、付帯イベント等を実施した。地方の方々の手作り昼食後、ブナ天然林の施業を行った。魚沼地方には非常に多くのブナ林があり、極相の天然林から整備された二次林も多く、人里近くまで生えている。物質資源、温暖化防止等環境資源、公益的機能、生態系維持、野外環境教育、そして、観光資源として地域の子供から高齢者までの保育活動で残して行きたい。故事「前人樹を植えて後人涼を得」である。

南魚沼地区地域推進員 有馬 秀夫



▲第3回「魚沼森の感謝祭」イベント状況